

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価		
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項	
第2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	年度	A	15	B	169	C	3	D	0	II	
		年度	A	15	B	169	C	3	D	0		
		年度	一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
1	教育に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	66	C	1	D	0	II	
		年度	A	0	B	66	C	1	D	0		
		年度	一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	10	C	0	D	0	II	新アドミッション・ポリシーについて、入学者選抜要項等への掲載や大学ホームページ、大学説明会等で広く周知したこと、医学部の平成32年度入試からの後期日程廃止及び県内医療を担う優れた人材を確保するため、全学において平成33年度からの新たな入試制度に向けた課題整理や検討を行ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	10	C	0	D	0		
		年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなアドミッション・ポリシーについては、入学者選抜要項及び学生募集要項にも掲載し、大学ホームページや大学説明会及び大学見学、オープンキャンパス、高校教員との懇談会等で相談者や参加者に広く周知した。 ・医学部においては、平成32年度入試からの後期日程廃止及び平成33年度入試からの大学入試改革による新たな入学者選抜に向けて、高校側の意見を聴きながら、これまでの入試の課題を整理し、変更後の入学試験についての検討を行った。 ・看護学部においては、平成33年度入試からの新たな入学者選抜に向けて、入試区分ごとの入試結果、入学後の成績及び卒業後の進路等を調査・分析し、県内医療を担う優れた人材を確保するための入学者選抜方法についての検討を行った。 									
(2)	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	38	C	1	D	0	II	医学部において、平成30年度第4学年から開始される新カリキュラムの臨床実習について検討を進めたこと、看護学部において、講義・演習で学んだ知識と技術を実践の場で創意工夫しながら適切に提供できる能力の習得を指導するとともに各実習の積み重ねで、専門的な知識及び技術を系統的に習得できるように指導したこと、医学研究科において、多分野にわたる最先端の研究手法や知識を幅広く習得させるため、学外講師を招いて大学院セミナーを開講したこと、看護学研究科においては、専門知識を持つ看護職育成のため、地域の看護職の大学院進学を促したこと、平成31年度からの領域新設に向け準備を行ったことは評価できる。また、会津医療センターにおいて、医学部5年生全員及び6年生の一部が臨床実習を行ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	38	C	1	D	0		
		年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学士課程 平成30年度の第4学年から開始される新カリキュラムの臨床実習について、素案を作成し、説明会を開催するなど検討を進めた。(医学部) 講義・演習で学んだ知識と技術について、実習という看護実践の場で得られる気づきに基づき、対象者に適した援助を創意工夫しながら提供できる能力を習得できるよう指導を行った。各実習を積み重ねることで、専門的な知識及び技術を系統的に習得できるように指導した。(看護学部) ・大学院課程 多分野にわたる最先端の研究手法や知識を幅広く習得させるため、学外から講師を招いて、「チェルノブイリの小児甲状腺癌の病理学的特徴について」などの大学院セミナーを94件開講した。(医学研究科) 専門知識を持つ看護職を育成するため、地域の看護職の大学院進学を促した。また、ニーズにあったカリキュラムとするため、平成31年度からの領域新設に向け準備を行った。(看護学研究科) ・会津医療センター 医学部5年生全員及び6年生の一部が臨床実習を行った。 									
(3)	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	9	C	0	D	0	II	医学部5年生の臨床実習においてiPadを用いた臨床実習ポートフォリオシステムの運用を行ったこと、FD講習会を開催し教員の教育力向上を図ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	9	C	0	D	0		
		年度	医学部5年生の臨床実習においてiPadを用いた臨床実習ポートフォリオシステムの運用を行った。									
(4)	学生への支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	9	C	0	D	0	II	医学部では、担任制及びファカルティアドバイザー制を実施したこと、看護学部では、学生生活委員会内に9名の学生生活アドバイザーを配置し、特に新入生が相談や質問しやすい環境を整えたことは評価できる。
		年度	A	0	B	9	C	0	D	0		
		年度	医学部では、担任制、ファカルティアドバイザー制を実施し、看護学部では学生生活アドバイザーを配置した。また、学生生活委員会内に、9名の学生生活アドバイザーを配置し、学生、特に新入生が相談や質問しやすい環境を整えた。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価		
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項	
2	研究に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	19	C	1	D	0	II	
		年度	A	0	B	19	C	1	D	0		
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	11	C	1	D	0	II	福島医薬品開発支援拠点化事業の各種成果情報(タンパク質解析情報)を各講座、企業等へ提供し学内外のプロジェクトや論文発表などにつながるよう支援したこと、戦略的学内研究推進事業において、「ふくしま国際医療科学センター活用分野」及び大型研究資金等の獲得につながる実用化を目指した研究「実用化分野」を新たに公募対象として設定したことは評価できる。
		年度	A	0	B	11	C	1	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 福島医薬品開発支援拠点化事業の各種成果情報(タンパク質解析情報)を各講座へ25件、企業等へ19件の提供を行い、学内外のプロジェクトや論文発表などにつながるよう支援した。 平成29年度の戦略的学内研究推進事業において、「ふくしま国際医療科学センター活用分野」及び大型研究資金等の獲得につながる実用化を目指した研究「実用化分野」を新たに公募対象として設定した。 										
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	8	C	0	D	0	II	英文校正支援サービス従事職員を配置し、学内研究者の英文校正の支援に当たるとともに、業務委託によりネイティブによるチェック体制を提供するなど、質の高い英語論文の作成支援環境の整備に取り組んだことは評価できる。
		年度	A	0	B	8	C	0	D	0		
		英文校正支援サービス従事職員を配置し、学内研究者の英文校正の支援に当たるとともに、業務委託によりネイティブによるチェック体制を提供するなど、質の高い英語論文の作成支援環境の整備に取り組んだ。										
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	年度	A	2	B	21	C	1	D	0	II	
		年度	A	2	B	21	C	1	D	0		
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	10	C	0	D	0	II	県民対象又は県民も聴講できる公開講座やセミナー等を開催するとともに、保健医療交流事業として講演会(希望13市町村)し、研究成果の発信を行ったこと、会津医療センターでは、出前講座や健康教室等を開催し、目標回数を概ね達成し、参加人数は目標を上回る実施状況であったことは評価できる。
		年度	A	0	B	10	C	0	D	0		
		県民を対象にした、あるいは、県民も聴講できる公開講座やセミナー等を開催するとともに、研究成果の還元の一環として保健医療交流事業を実施しており、希望13市町村で講演会を開催した。会津医療センターにおいては、出前講座や健康教室を開催し、目標の回数・参加人数を達成した。										
(2)	地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	1	B	9	C	1	D	0	II	臨床研修の質の向上を図るため、臨床研修指導医講習会等を開催し、人材育成を行ったこと、新医療系学部の校舎建設に係る実施設計について、協議等を経て平成30年3月に実施設計が完了したことや新医療系学部の基本的な考え方を取りまとめた「中間まとめ」を平成30年1月に公表したことは評価できる。
		年度	A	1	B	9	C	1	D	0		
		新医療系学部の校舎建設に係る実施設計について、ヒアリングを3回実施し、県と協議を進めた結果、平成30年3月に実施設計が完了した。また、新医療系学部の基本的な考え方を取りまとめた「中間まとめ」を平成30年1月に公表した。										
(3)	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	年度	A	1	B	2	C	0	D	0	II	学内のシーズ集を最新版に改訂し関係機関や企業等に送付したほか、メディカルクリエイションふくしまなどの展示会、産学官交流のつどいや自治体の企業立地セミナーなどの産業界等の連携イベントにおいて周知し、共同研究等の実施を呼びかけたこと、企業との共同研究の結果、脊椎固定インプラントについて、平成30年1月に薬事承認を受け、実施許諾契約締結に向け手続きを進めたことは評価できる。
		年度	A	1	B	2	C	0	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 学内のシーズ集を最新版に改訂した。関係機関や企業等に送付したほか、メディカルクリエイションふくしまなどの展示会、産学官交流のつどいや自治体の企業立地セミナーなどの産業界等の連携イベントにおいて周知し、本学との共同研究等の実施を呼びかけた。 産学官連携コーディネーターが講座訪問を行い、研究シーズを把握し、企業とのマッチングに努めた。 企業との共同研究の結果、本学で2件目となる脊椎固定インプラントについて、平成30年1月に薬事承認を受け、実施許諾契約締結に向け手続きを進めた。 										

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価		
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項	
4	国際交流に関する目標を達成するための措置	年度	A	2	B	5	C	0	D	0	II	
		年度	A	2	B	5	C	0	D	0		
(1)	国際交流の推進に関する目標を達成するための措置	年度	A	2	B	5	C	0	D	0	II	国際交流室における定例会議において、新規交流案件の検討や国際交流に関する情報共有の機会を設けるなど、円滑に国際交流事業を推進したこと、新たにオハイオ州立大学医学部放射線腫瘍学講座との国際学術交流に関する覚書を締結したことは評価できる。 また、学術交流協定を締結している中国武漢大学などへの学生派遣などにより交流の進展を図ったことは評価できる。
		年度	A	2	B	5	C	0	D	0		
5	大学附属病院に関する目標を達成するための措置	年度	A	11	B	58	C	0	D	0	II	
		年度	A	11	B	58	C	0	D	0		
(1)	附属病院に関する目標を達成するための措置	年度	A	8	B	42	C	0	D	0	II	平成30年度からの新専門医制度による専攻医募集に向け、基本領域プログラム説明会を開催するなど周知を図ったこと、支援事業の要綱を見直し、先進医療の承認を受けるための研究について支援対象とし経費支援を行ったことは評価できる。 また、「基本理念」、「看護部の理念」、「患者さんの権利と責務」について院内掲示、ホームページ等で周知を行い、病院機能評価の機会を通じて職員の意識の向上を図ったことは評価できる。
		年度	A	8	B	42	C	0	D	0		
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	年度	A	3	B	16	C	0	D	0	II	会津管内の医療機関との連携を推進し、患者支援センターを中心に取り組みを行った結果、紹介率・逆紹介率とも年度目標を上回ったこと、平均在院日数の適正化に配慮しながら、ベッドコントロールを推進することにより一般病床利用率の向上を図った結果、年度計画を達成できたことは評価できる。
		年度	A	3	B	16	C	0	D	0		
第3	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	年度	A	0	B	20	C	0	D	0	II	
		年度	A	0	B	20	C	0	D	0		
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	7	C	0	D	0	II	県民健康調査推進のため、検査会場での問診表書き方の支援や個別訪問対応などを行い、調査の周知及び問診表の提出に向けた啓発活動を行ったこと、県・市町村及び関連団体と被災住民に関する情報の共有を図り、ニーズに応じた支援を実施し、支援者を対象とした住民に対する支援のあり方の助言や研修・メンタルケアを実施したことは評価できる。
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0		

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価		
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項	
2	復興支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	4	C	0	D	0	II	県内外の医師などのメディカルスタッフや医学部5年生対象のBSLを実施し、災害・放射線障害に対応できる人材育成を行ったこと、知的財産の収益化に向けて企業等とマッチングを行ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0		
		年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の医師などのメディカルスタッフや本学医学部5年生対象のBSLを実施し、災害・放射線障害に対応できる人材育成を行った。 ・企業に提供した知的財産から得られる実施許諾収入を確実に収納し、知的財産運用経費等として活用できるよう努めた。 ・知的財産の収益化に向けて企業等とマッチングを行った。 									
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	8	C	0	D	0	II	学内外の医師に対しPET機器による早期診断の活用について働きかけを行い、診断実施数を前年度比約2割増加させたこと、生物学的線量評価事業に係る広島大学との共同研究を継続して実施したこと、また、民間企業等と共同研究契約を締結し、PETや放射性薬剤に関する研究を進めたことは評価できる。
		年度	A	0	B	8	C	0	D	0		
		年度	生物学的線量評価事業に係る広島大学との共同研究を継続して実施した。また、民間企業等と共同研究契約を締結し、PETや放射性薬剤に関する研究を進めた。									
4	復興支援の連携・協力に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	1	C	0	D	0	II	国内有数の機器を活用した最先端研究の推進に向け、放射線医学総合研究所と共同で放射性薬剤の製造に関する研究を実施したこと、ICRPとの合同ワークショップの開催や日本核医学学会への参加等を通じ、国や関係大学、研究機関との連携強化に努めたことは評価できる。
		年度	A	0	B	1	C	0	D	0		
		年度	国内有数の機器を活用した最先端研究の推進に向け、放射線医学総合研究所と共同で放射性薬剤の製造に関する研究を実施した。また、ICRPとの合同ワークショップの開催や日本核医学学会への参加等を通じ、国や関係大学、研究機関との連携強化に努めた。									
第4	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	年度	A	1	B	49	C	0	D	0	II	
		年度	A	1	B	49	C	0	D	0		
		年度	概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	12	C	0	D	0	II	
		年度	A	0	B	12	C	0	D	0		
		年度	概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	10	C	0	D	0	II	昨年度までに引き続き、新規採用職員研修、その他各種研修などにおいて法人・大学の方針や課題などの情報共有を図ることにより、法人理念の意識付けや帰属意識の向上を図ったこと、女性医師の産休等による欠員補充のための代替職員雇用により制度を利用しやすい環境整備を実施したことは評価できる。
		年度	A	0	B	10	C	0	D	0		
		年度	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までに引き続き、新規採用職員研修、その他各種研修などにおいて法人・大学の方針や課題などの情報共有を図ることにより、法人理念の意識付けや帰属意識の向上を図った。 ・理事長の方針や考えを具現化するため、法人経営室が各理事や関係者との意見交換等を行った。 									
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	2	C	0	D	0	II	必要に応じ、係員へ業務の優先順位や仕上がりイメージ等の指示を行い業務の軽減・効率化を図ったこと、設計・積算事務と入札事務の分離など、入札制度見直し実行計画に基づき適切に実施したことは評価できる。また、物品購入における条件付一般競争入札の適用拡大を図るなど、契約の競争性を高めたことも評価できる。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
		年度	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、係員へ業務の優先順位や仕上がりイメージ等の指示を行うことで業務の軽減・効率化を図った。 ・設計・積算事務と入札事務の分離など、入札制度見直し実行計画に基づき適切に実施した。 									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価		
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項	
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	II	
		年度	A	0	B	6	C	0	D	0		
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	4	C	0	D	0	II	平成29年4月より、倫理委員会と治験審査委員会の事務局を統合し、医療研究推進課内に委員会担当セクションを設置したこと、倫理委員会を臨床研究審査委員会と一般倫理審査委員会の2つに分け、臨床研究審査と治験審査の一体的な運用を開始したことは評価できる。
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0		
		平成29年4月より、倫理委員会と治験審査委員会の事務局を統合し、医療研究推進課内に委員会担当セクションを設置した。倫理委員会を臨床研究審査委員会と一般倫理審査委員会の2つに分け、臨床研究審査と治験審査の一体的な運用を開始したことは評価できる。										
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	2	C	0	D	0	II	削減目標を決定し、省エネルギー対策について学内への周知徹底や改正省エネルギー法に基づき、新棟を含めた管理基準の見直し、エネルギー削減に向けた具体的な方法の検討を行ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 削減目標を決定し、省エネルギー対策の徹底について学内に通知した。また、外来者向けのチラシを掲示し協力を求めた。 改正省エネルギー法に基づき、新棟を含めた管理基準の見直しを行い、エネルギー削減に向けた具体的な方法を検討した。 										
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	年度	A	1	B	10	C	0	D	0	II	
		年度	A	1	B	10	C	0	D	0		
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	年度	A	1	B	5	C	0	D	0	II	(独)大学改革支援・学位授与機構から自己評価書について高い評価を受け、平成30年3月22日付けで、「大学評価基準を満たしている」との認定を受けたことは評価できる。
		年度	A	1	B	5	C	0	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価書について、評価室認証評価部会、ワーキンググループ等において内容を調整し、大学改革支援・学位授与機構へ提出した。また、受審対策委員会を中心に準備を進め、訪問調査を受審した。平成30年3月22日付けで、「大学評価基準を満たしている」との評価結果が通知され、認定証の交付を受けた。 平成24年度に「医学部教員(助教、助手)を任期の定めのない教員に移行する際の手続き」を策定し、運用を開始した。平成25年度には、11人が任期の定めのない教員に移行した。 										
(2)	情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	5	C	0	D	0	II	情報公開を適切に実施するとともに、教育・研究活動を始めた取組について、7月に新たに開設した公式Facebookページなどにより情報発信を行ったこと、広報誌「いごころ」(年間4号発行)を県内企業や高等学校へ配布するなどし、医療の取組について県民へ情報発信を行ったことは評価できる。
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 情報公開を適切な事務手続きにより実施するとともに、教育・研究活動を始めた本学の取組について、様々な媒体により情報発信を行った。 平成27年度に創刊した広報誌「いごころ」を年間4号発行し、県内企業や高等学校への配布、附属病院総合案内への配置等により、本学の医療の取組について県民への情報発信を行った。 7月に新たに公式Facebookページを開設し(投稿95件)、本学の様々な取組について発信している。 										
4	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	年度	A	0	B	21	C	0	D	0	II	
		年度	A	0	B	21	C	0	D	0		
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	II	コンプライアンスの推進、徹底のため、各所属にマニュアルを送付し法令遵守意識の一層の浸透を図るとともに取組状況を把握したこと、公的研究費の適正使用等に係る理解度調査結果に基づき、特に理解度が低い項目について研修会で重点的に説明し、教職員の理解度向上に努めたことは評価できる。また、法令、指針などに基づく勧告・通知に適切に対応し、手続き等の遵守を周知徹底するための各種説明会を開催するなど適切に対応したことは評価できる。
		年度	A	0	B	6	C	0	D	0		
		<ul style="list-style-type: none"> 各所属に対し「コンプライアンスマニュアル」を送付し法令遵守意識の一層の浸透を図るとともに、各所属の取組状況を把握した。 所属ごとに実施している公的研究費の適正使用等に係る理解度調査結果を取りまとめ、特に理解度が低い項目については、後期に開催される研修会において重点的に説明することで教職員の理解度向上に努めた。 法令、指針などに基づく勧告・通知に適切に対応し、手続き等の遵守を周知徹底するための各種説明会を開催するなど適切に対応した。 										

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価			
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項		
	(2)	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	II	利用者の利便性を高めるため、土日祝日の利用開始時間を3時間早めたこと、電子ブック(和書208タイトル)を購入し充実させたこと、新刊情報を中心に図書のご案内のため「ブックログ」の試行を開始したことは評価できる。
			年度	A	0	B	6	C	0	D	0		
			<p>・電子ブック充実のため、和書208タイトルを購入しホームページで周知した。入学時のオリエンテーションなど、利用者の求めに応じて、学内各所属と連携し、データベース・文献検索講習を行った。また、新刊情報を中心とした図書のご案内のため「ブックログ」の試行を開始した。</p> <p>・学部棟の防災設備、給水管設備、防水設備の改修を計画的に実施した。</p>										
	(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	7	C	0	D	0	II	学生に対し、大学健康管理センターだよりを発行し健康管理情報の提供を行うとともに、メンタルヘルス対策のため、臨床心理士の学生相談枠を設けた。その他、メンタルヘルス研修会や禁煙研修会を随時開催し、学生の健康管理に努めた。
			年度	A	0	B	7	C	0	D	0		
			<p>・大学健康管理センターだよりを定期的に発行し、学生に対し健康管理情報の提供を行うとともに、メンタルヘルス対策のため、臨床心理士の学生相談枠を設けた。その他、メンタルヘルス研修会や禁煙研修会を随時開催し、学生の健康管理に努めた。</p> <p>・新たに法人に所属し未所持である職員に対して「大地震対策マニュアル(ポケット版)」を配付した。また、消防・防災訓練を7月に託児所、看護師宿舎、10月と2月に附属病院、11月に医学部区域にて実施するとともに、災害対策マニュアルに基づく対応手順を確認した。</p>										
	(4)	情報通信基盤の整備・活用に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	2	C	0	D	0	II	国際学術無線LANローミング「eduroam」に参加し、学内のユーザは他の「eduroam」参加機関において無線LANが利用できるようになったこと、平成29年7月に福島県ネットワークセキュリティ連絡協議会に加盟し、体制を強化したことは評価できる。
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
			<p>・国際学術無線LANローミング「eduroam」に参加し、学内のユーザは他の「eduroam」参加機関において無線LANが利用できるようになった。</p> <p>・平成29年7月、福島県ネットワークセキュリティ連絡協議会に加盟し、体制を強化した。</p>										